

イエス様の片思い(片恋い)

おはようございます。

今日の福音のテーマは“良い土”でした。“よい畑”“肥えた土”“肥沃な土”です。弱くも、枯れる事も、荒れる事もない、その様なきれいな土地を意味します。この世の中にそんな土地があるのでしょうか。絶対枯れない、絶対雑草が出てこない、いつも豊かな土地。そういう土地があるのでしょうか。

もちろんこの福音で言われている“土地”“心”の事を言います。弱くもない、変わる事のない、その様な心があるのでしょうか。実際にあらゆる聖人達も、色々な試練、誘惑に遇いました。そして使徒 12 人も同じ過程を通りました。ましてやイエス様ご自身も誘惑と試練の内でご自分の人生を送りました。

結論としては、“良い土、肥えた土地”はもともとあるものではなく、“耕された土地”を意味します。“作られた土地”を意味します。豊かな自然の中の肥沃な土地も、人間の手が入らなければ、それは“荒れ野”となってしまいます。結局“耕す”事です。“作る”事です。いつも耕さなければならぬのが私達の心ではないでしょうか。

ある人は「私はしっかりとした信仰があります」「私の信仰は揺るぎないものだから心配なくてよい」という愚かさをみせる人もいます。私達の心の畑というものは、毎日何かをしなければ、枯れて、荒れてしまいます。特に信仰の面ではその様なことが強く現れます。そうしたらどうすればよいのでしょうか。この心をどの様に耕せばよいのでしょうか。

簡単です。ある意味で信仰の道はものすごく簡単で単純です。それは何でしょうか。毎日“新しく始めようとする心”があれば結構です。私達は毎日いつも“新しく始めなければならない”という意識が何よりも必要だと思います。その中で倒れるでしょう、間違えるでしょう、失敗するでしょう、傷つくでしょう。色々な事があると思います。しかし私は「今日も、与えられたこの時間も、自分の信仰の、心の畑の為に新しく何かをやる」とする覚悟が何よりも必要ではないかと思えます。

さあ、皆様、片思いってどういう意味ですか。分かっていますよね。片思いの経験のある方、手を挙げてみて下さい…。わかりました。こういう経験がない方は少し悲しい方ですよね。私自身の歴史の中にも片思いはありました。その片思い、もっと強く言えば、“片恋い”と言えるのでしょうか。

“片恋い”によっていつも傷つく方は誰かご存じですか。“片恋い”によって毎日辛い思いをなされている方こそイエス様ではないでしょうか。いつも“片恋い”をもって皆様を見ているのですが、相手が気が付かない。いつも知らんぷり。何とか自分の心を現そうと毎日呼びかけているのですが、私達は気が付かない。司祭である私も何パーセント、あの方のみ旨に気が付いているのでしょうか。皆様はどうですか。

信者である私達がこの様な状態なので、イエス様を知らない人達を見られるイエス様のその“片恋い”の心はどの位辛いのでしょうか。きつともどかしいのでしょうか。信仰というものは、“返事”がなければならない。呼びかけに対して答えなければならない。それが信仰の実践だと思います。

振り返ってみましょう。私は神様から与えられた、守るべき、すべき掟に対してどの位忠実にやって来たか。あの方に耳を傾けようとしたか。今の私に、イエス様が一番望んでおられるのは何かを考えた事があるのか。考えてみましょう。皆様も私も“片恋い”で終わってしまったら悲しいことです。実を結ぶべきです。人間は心理的に、出来るだけ早く実が結ばれる姿を見たくくなります。見たいです。

しかしその実を結ぶ為には、まず心を込めて“耕す”事が大切です。“耳を傾けようとする心”“自分が間違えたら潔く認める心”。イエス様一番望んでおられる“その愛を体験しようとする心”、それが何よりも必要だと思います。基本的な事を守りなら、私達が信仰の生活を送れば多分“片恋い”“人恋い”で悩んでいらっしゃるイエス様を救うかも知れません。

いつも言いますが、私達が今この時、神様に願うわけではありません。神様が、イエス様が私達の為に祈っています。願っています。この片恋いの心を出来るだけなくす様に私達が応えましょう。それが信仰の生活ではないでしょうか。そして、その中で感じた事を、日々の生活の中で現す努力も必要ではないかと思います。

信じて下さい。皆様をイエス様は今ももどかしい心で愛しておられます。それを感じる事が出来たら、私達は恐れる事は何もなくなると思います。この心で、このミサを捧げながら、私達が新しい信仰の道を歩もうとする覚悟を強くする事が出来るように祈りましょう。

ありがとうございました。